



2004年度防災教育チャレンジプラン

2004年度 防災教育チャレンジプラン

伊豆半島沖地震から学ぶ ～今、そしてこれから～の防災～



地域自主防災訓練

平成 17 年 2 月 27 日(日)

みなみなか
静岡県南伊豆町立南中小学校



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

1 研究のねらい

本校の総合的な学習の時間は、「とびだせ！みなみのへ」を学校のテーマとし、ひともの・こととのかかわりを大切にしていこうという確認のもとで取り組んでいる。

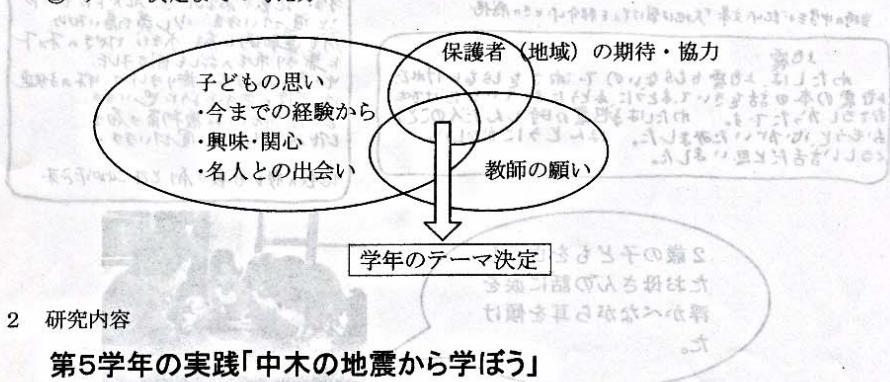
平成15・16年度、5・6年生は「中木の地震から学ぼう」をテーマに取り組んだ。被害の大きかった地域が学区内であること、体験者が身近に大勢いること、郷土館、役場や図書館にも資料があることなどから、多様な活動が展開でき、活動が広がっていくのではないかと考えた。「自ら考えて行動する」「進んで何かをしよう」ということが苦手な傾向にある子どもたちが、与えられた活動でなく、自分なりの課題を見つけ、追究していく姿を願い研究することにした。

本校の総合的な学習の時間の捉え方

① 総合的な学習でつけたい力

- 「ひと・もの・こと」と自分とのかかわりの中から課題を見つける力
- 課題を追究し、解決する力
- 表現する力

② テーマ決定までの考え方



2 研究内容

第5学年の実践「中木の地震から学ぼう」

(1) テーマ決定までの経過

4月当初、やってみたいこと、調べてみたいことを子どもたちに聞いてみた。子どもたちから出された意見は「青野川にすむ生物」「学校の周りの鳥や木」「生き物を飼う」「南伊豆を探検する」など子どもたちの興味は自然に向かっていた。そこで、自然以外のいろいろな課題があることを紹介し、しばらく様子をみるとことにした。

30年前に南伊豆町で起こった地震をきっかけに年間を通して活動を考えたが、地震というテーマは、子どもたちにとって、難しいものなので、どのように投げかけていったらよいか思案した。教師からの一方的な投げかけでなく、子どもたちから課題が生まれてくることを期待し、4月の避難訓練のとき、学活で地震について取り上げた。このとき、子どもたちが地震について知っていたのは、「山崩れがおこる」「停電になる」「断水する」といったことだった。そこで、昭和49年の伊豆半島沖地震のことを話し、当時の中学生の文集「大地は裂けて」を紹介した。文集を通して子どもたちは、地震による想像を絶するような被害や、身近な人を失った悲しみなどを知った。翌日、実際に子どもの父母が経験していたり、祖母を亡くしていたり、中木に慰霊碑があることなど、家人の人から聞いてきたことで話が発展していった。「地震のことを調べたらどうかな？」という案が出され、教師からも投げかけたところ、みんなの意見がまとまり、この学習がスタートすることになった。

学区である中木地区が大きな被害を受けているので、子どもたちにとって身近なできごとであること、いろいろな学習形態が考えられること、年間を通して取り組める課題であることからこのテーマが決定した。





2004年度防災教育チャレンジプラン

(2) 活動経過

「中木の地震(伊豆半島沖地震)について調べよう」

① 身近な人の体験談

1学期には、学級全体で活動を進め、「中木の地震(伊豆半島沖地震)について調べよう」という共通課題で取り組んだ。地震という難しいテーマだったが、身近に体験者がいたことで、学習が発展していった。本校に在学中だった父兄らの体験談や、栄養士さんの話に耳を傾け、地震のこわさを知った。栄養士さんの赤ちゃんが奇跡的に助かった話や、「山が動いた。」という話は心に残ったようだ。



当時の中学生が記した文集「大地は裂けて」を紹介したときの感想

地震
わたしは、地震を知らないので、こわさを知らないけれど、地震の本の話をきて、本とつに、本とうにきいて、いるだけでもおもしろかったです。わたしは、地震の時、しんどい人のことをおもうと、心がいたみました。ほんとうにがない、くるしい言葉だと思います。

伊豆半島沖地震　5月9日
午前8時33分、マグニチュード6.9の直下型地震
体感：低めの揺れで、震源不明。
30人以上が怪我、命と安全を脅かす。
小学校、幼稚園などが一時休業。
前回は、天気も小雨でした。
地震のときは、震度は5度と思われる。
地震が発生する前兆として、地下水面下に地震波が伝播する。
震度が大きくなると、震度が弱くなる。
地震は、地殻の変形によって発生する。
震度が大きくなると、震度が弱くなる。
震度が大きくなると、震度が弱くなる。

2歳の子どもを亡くしたお母さんの話に涙を浮かべながら耳を傾けた。



② 郷土館へ行こう

当時の町の様子をもっと詳しく調べるために、郷土館へ行き、貴重な写真や新聞を見ながら、館内で説明を聞いた。久慈美鈴氏が聞き手として中木に住んでいるAさんが黒板に山の絵を描き、「山のここの部分が崩れたんだよ。」と言うと「中木に行ってその山を見たい。」という案が出され、みんなで中木に行くことになった。



郷土館へ行こう
約束
・郷土館でやあがいい。
・用事で行くことをとらない。
・車に気をつけろ。
・静かに話を聞く。
・あいさつをし、かります。
30年前　昭和49年
5月9日　木曜日
中木の地震
やればたくにやれた。
震度は、1m～2mしか残らなかった。
おじょう草がひいが、あっこくねぎよ。
アーチルームははじめて、仲木に97人。
生徒は28人。
壁の脚のまがは、入間の方があと。
八重は、すかとせきは、かわうで。
おとくして、震度をあげた。
液状化

成想
私は道路にさかががでたり、大きなか落ちこにりに話を聞いていただけ。
もともかがたです。郷土館には、當時、写真がありました。当時の写真は、土じくずれなどが写されていました。総合で地震のことを何度も危険をかけられると実感して、写真を見たときは、もともとびっくりしました。仲木の人はどうしゃくすれで、めちゃめちゃになってしまった。仲木を、ハレさんとの間、ここはどうだ?などと思つた人がいると思います。月森田さんに話を聞いて色々なことが分かりました。話を聞くのはいいけど、話を、森田さんは、當時のことを思つてしまつだけ、かわいそうに思つました。こんなことを経験した人は、とても、悲しい思いをしたんだ」と、改めて実感しました。





2004年度防災教育チャレンジプラン

③ 中木訪問

中木では、当時、消防団長として活躍された方に現地を案内していただいた。崩れた山や公園の慰靈碑を見学し、地震発生時の生々しい様子や救助活動の大変さなど貴重な体験談をうかがった。

依頼やお礼をするとき、国語で学習した「依頼の手紙・お礼の手紙」を生かして、実際に手紙を出すことができた。また、校外へ出かけるときには、気をつけることを話し合い、自分たちで決めた約束を守って校外学習を進めることができた。



崩れた山を見学する

仲木へ行こう

感想

山口自分の大切な家族をなくした人なのに、今は明るいことも楽しい人でした。みんなの前ではそうなのかなと思いました。大切な人をなくしてもそれ以上にがんばる」と、山口さんは言いました。とても強い人だと見受けました。山口さんが話してくれた色々なことを、ずつとおぼえたいと思いました。山口さんに会って、色々なことを聞けてよかったです。

「自分の課題を追究しよう」

④ 調べてみよう

1学期に全体で活動を進めてきたことをきっかけに、2学期は課題別のグループに分かれて、課題追究を行った。初めは教師に頼ることが多く、どのように進めていったらよいのか戸惑う場面もあったが、必要な資料を図書館から借りたり、家でインターネットを使って調べたり、自主的な活動に広がっていった。

新聞やテレビで地震の報道をみると、教室でも話題にのぼるようになった。9月末に北海道で地震が起きたときには、登校前の朝のニュースを見て、多くの子どもが情報を得ており、黒板に日本地図を書き、知っている情報を書き加えるなど、関心も深まってきた。調べたいこと、まとめたいことがあると、放課後残って活動する子どもも出てきた。

Aグループ(4人) 「地震の前ぶれ・東海地震に備えて」

自宅から地震の本を持ってくる子どもも、家のインターネットで調べてくる子どももが出てきた。前ぶれが分かれれば、今後の地震に役立つのでは・・・と考え、調べていたが、自分たちが調べたたくさんの前ぶれの情報は確かなものではないことが分かったようだ。今後起こる確立が高いと言われている東海地震について、調べたことをみんなに伝えたいと、熱心にまとめていた。

Bグループ(5人) 「日本はなぜ地震が多いのか」

そもそも、地震はなぜ起きるのか?という疑問から調べ、日本に地震が多い理由にたどりついた。資料をそのまま使うのではなく、難しく書かれた説明を分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのかを考えて、まとめることができた。放課後も残って調べていく熱心な姿も見られた。





2004年度防災教育チャレンジプラン

Cグループ(7人) 「町や学校の対策—電気や水は大丈夫?—」

自分たちの学校は、もしものとき大丈夫なのだろうか？ 食料や水はどうなっているのか？ また、町ではどんな対策をとっているのか？ という疑問を調べた。リーダーとなつて活動する子どもがいないグループで、なかなか行動できずに悩むことも多かった。町役場へ出かけ教わった「自分の命は自分で守る・自分の地域はみんなで守る」という言葉が印象に残ったようで、帰ってきてから学級のみんなに教えていた。



Dグループ(5人) 「他の大きな地震について」

子どもたちが知っていた地震以外に、大昔から数多くの地震が起きていることを知り、日本の地震の歴史に驚いていた。「ぼくたちが生まれてからの地震にしづってまとめよう。」と、「生まれてからの地震」と「今年起きた地震」の2つに分かれてまとめた工夫をした。

グループでの課題追究のまとめとして、学級での発表会を行い、友達の学習してきたことにも目を向けることができた。

「みんなでやってみよう」

⑤起震車体験・液状化実験

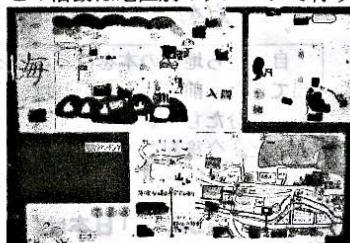
子どもたちから出てきた課題の中で「起震車体験」「液状化実験」など全体で取り組みたいものについては、学級全体の活動として取り入れることにした。これらについては、行政センターの方にG.T.としてお願いした。阪神淡路大震災のときのボランティア活動の経験談もあり、子どもたちは強い関心を示し、積極的に質問した。



液状化の実験

⑥防災マップをつくろう

どんな地図をつくりたいのか、そのためには、事前にどんな活動が必要か話し合い、活動を進めていった。「自分の住んでいるところを書きたい。」「通学路を調べたい。」「探検に行って調べたい。」などいろいろな意見が出され、この活動は地区別のグループで行うことになった。



「防災ウォッチング」では、通学路や自分の家の周りが安全だろうかと調べ、ノートに書き込んだり、写真を撮ったりし、自分の目で見てきた情報を生かして地図づくりを行った。この防災ウォッチングは、授業時間外の自主的な活動だったが、家人の人や友達と一緒に意欲的に活動できた。





2004年度防災教育チャレンジプラン

「みんなに伝えよう」

書類のへ試験⑧

⑦けやき祭

「地震に備えて準備するものをみんなに伝えたい。」「紙芝居にして田植えや稲刈りと一緒にやった幼稚園児に教えてあげたい。」「でも、幼稚園児に地震のことを伝えるのは難しそうだな。」「新聞にしてみたいな。」など今後の活動に対する思いがいろいろ出てきた。自分なりの選んだ方法でまとめたことを表現するのがよいと思ったが、時間的に難しく、本校のけやき祭にしぶり、舞台発表に向けて取り組んだ。

一年間学んできたことを分かりやすく伝えるためには、どのような発表にしたらよいのか話し合った。「学び始めたきっかけを入れよう。」「劇のように役を決めて発表しよう。」「やっぱり被害の写真を映さないと伝わらないと思う。」「博士役が説明したらどうかな。」と出てきた意見を実行委員が中心となりまとめていった。

お世話になった方を招待したいという子どもたちの思いで、招待状を送り、当日の発表会にも来ていただいた。

一年間ありがとうございました。

私は、仲木 地震のことを並んで、豊かな生活、
健康な体、そして命の大切さが身にしみました。
私は、起業車に乗、大時に寒っていました。
だけど、もしも本当に震度7の地震が起きた
とき、たぶん、いや絶対に実っているところか
走り出ると思います。
こういうことは、地震で揺れたからわかったのだと
思いました。私は今まで、地震 やこうすい、つな
はんて、どうすことないじん。と思、ていました。
しかし、うやうやしくて、調べてみると、「ああ、地震 やつは
かわくないなんて、ありえないことな人だ!」
と心からうやりました。
私は、けやき祭の、私達の登場を見て泣いてくれた
人、そして、感想によかれた。泣けました。
と書いてくれた人にとてもかんしゃしています。
私は、地震のことを調べて、とても勉強になり、
これらを並んで、地震のことを調べて良かった。
と思います。できれば、6年生には、もっと、活動を
もっともっと大きくしていけたいです。(アマギロ)

けやき祭と終えて 保護者からの感想

万佐地震プロモート山は、自然林で
森林浴を楽しむと、とても楽しかったです。
みんなは、大きい声で、自信を持って、答えていました。
当時の様子は、このまま、お山のままで、食べ出され、
川遊びや、お風呂など、これまでのままで、いい思い出になりました。
今後、起業家として、また、農業にも関わって、地域活性化に貢献してもらいたい。
これまで、お話を聞く度、毎回、驚かれていました。
初めて、お話を聞く度、毎回、驚かれていました。
今日は、とても、おもしろい授業でした。
お話を聞く度、毎回、驚かれていました。
今日は、とても、おもしろい授業でした。
今日は、とても、おもしろい授業でした。
今日は、とても、おもしろい授業でした。
今日は、とても、おもしろい授業でした。
今日は、とても、おもしろい授業でした。

二年生の感想より
二年生の感想

二年生ではじかで見て、もじもじしながら、
をしておいたほど、がいさとうげでした。妻
といふ言葉も、つもじんの気をそそぐた。
子どもたちは、さすがに、年生は、力が付く。
ひとりものがたれたりするのをみてきた。
う年生ではじかで見て、もじもじしながら、
をしておいたほど、がいさとうげでした。妻
といふ言葉も、つもじんの気をそそぐた。
子どもたちは、さすがに、年生は、力が付く。
ひとりものがたれたりするのをみてきた。
う年生ではじかで見て、もじもじしながら、
をしておいたほど、がいさとうげでした。妻
といふ言葉も、つもじんの気をそそぐた。
子どもたちは、さすがに、年生は、力が付く。
ひとりものがたれたりするのをみてきた。
う年生ではじかで見て、もじもじしながら、
をしておいたほど、がいさとうげでした。妻
といふ言葉も、つもじんの気をそそぐた。
子どもたちは、さすがに、年生は、力が付く。
ひとりものがたれたりするのをみてきた。



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

⑧地域への発信

持ち出し品は何を用意するの?

持ち出し品は何を用意するの?

防災5か条

1. 持ち出し品も身を守るう。自分
2. 地震あわてず自分
3. 地震で一七一七電話
4. 公共力助けで伊豆半島地震
5. みかんかんからもうお津波が

町の高齢者の割合とくらいい?

年齢層	割合
60歳以上	28.2%
50~59歳	33.7%
40~49歳	15.2%
30~39歳	8.4%
20~29歳	6.0%
10~19歳	2.7%
0~9歳	0.7%

**地
震
新
聞**

中木出身の人見

高野優希

発行者

学級で話し合って、みんなで決めた「防災5か条」

3 成果

- 防災と言っても、子どもたちにとっては、つかみどころのないものでしかなかったが、現地を訪問し、30年前の伊豆半島沖地震の被災者の体験談を聞く活動を通して、防災を現実的なものとして受け止めることができた。
- 子どもたちは、このプランによる活動を通して学んだことを生かし、家族に持ち出し品を用意するように働きかけるなど実践的な防災意識が高まってきた。
- 地域に高齢者が多いことを知り、日ごろから交流を深め、災害のときに少しでも役立つたいという防災意識が高まってきた。

4 課題 (今後の取り組み)

南伊豆ならではの人と人との心をつなぐ活動を更に深め、地域への発信を今後も続ける。



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

年次		平成16年度 総合的な学習の時間年間計画（5年）											
主な活動		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
テーマについての話し合い	伊豆半島冲地震について調べよう	30年前の地震について身近な人に聞いてみよう	地盤調査隊 南伊豆町の生態を調査しよう	ふれあいを通して学ぼう	みんなに伝えよう	防災プランをつくろう	防災への発信	けやき祭	県防災センターを見学しよう	日本手漉きの郷傳承「手漉」	国際「ニュースを伝えよう」情報	劇団ふじさん	伊豆半島冲地震の復興支援
指導者 協力者	鈴木善喜先生（伊豆半島冲地震調査隊）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）	鈴木善喜（郷土館）
関連教科	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」	国語「依頼の手紙、お礼の手紙」



2004年度防災教育チャレンジプラン



2004年度防災教育チャレンジプラン

平成16年度 総合的な学習の時間年間計画 (6年) テーマ「伊豆半島沖地震から学ぶ～わたしたちと地震～」											
主な活動	☆年間のテーマを決めよう					わたしたちと地震					備考
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
	① 仲木地震について詳しく調べてみよう！仲木地区の地図を作り、自分の住んでいる地区的様子を詳しく調べてみよう。	② 自分の住む地域の地図を作りたい。自分の住んでいたい地域の様子を知るために、仲木地震に参加してみたい。	③ 仲木地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	④ 仲木地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑤ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑥ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑦ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑧ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑨ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑩ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。	⑪ 地震について詳しく調べてみよう！仲木地震に参加してみたい。
指導者 協力者	・南伊豆町総務課防災係 山田さん	・下田消防署南伊豆分署の方々	・山田さん	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学	・劇団ふじさん・仲木区区長さん・幼稚園児見学
反 儲	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近	・遠近



2004年度防災教育チャレンジプラン



防災教育②

備
え
る
大地震

「赤ちゃんはおじいちゃんが大好きで、この日もおじいちゃんと一緒に出掛ける途中に土砂崩れに巻き込まれたの。土の中から見つかった時もおじいちゃんがしっかり抱きかかえていて、赤ちゃんの顔はきれいだったわ」

昨年10月、「昔のことを教えてほしい」と自宅を訪ねてきた静岡県南伊豆町立南中小(石田博之校長、148人)の児童4人に、長男と義父を一度出した50歳代の主婦が涙ぐみながら語った。74年5月に発生した伊豆半島地震(マグニチュード6・9)。当時の新聞や写真を見返しながら話す姿に、児童たちも涙をこらえながら聴き入った。

6年の藤田千香子さんは、「目の前の山が崩れ、何人ももの



30年前の地震による土砂崩れで、2歳の赤ちゃんを亡くした主婦から話を聞く児童ら(南中小提供)

メモ 南中小で今年2月に行われた防災訓練は、児童たちの学習成果を生かして内容が以前とは一新された。かつては地震を想定した避難と保護者への引き渡しだけだったが、地元消防署の協力を得て起震車や煙の中を逃げる smokey体験や煙の中を実演などを実施した。地盤の液状化実験なども盛り込んだ。

(伊豆半島地震(マグニチュード6・9)。当時の新聞や写真を見返しながら話す姿に、児童たちも涙をこらえながら聴き入った。6年の藤田千香子さんは、「目の前の山が崩れ、何人ももの

身近な体験を聞き学ぶ

われ、土砂崩れが多発して30人が死り、102人が負傷し、住宅の被害は約1300棟に達し、南小は、6年生の「総合的な学習」の時間に、伊豆半島沖地震を題材にした防災教育に取り組んでいる。きっかけは01年4月、同町立南伊豆中の生徒たちが地震発生直後につづった文集「大地は裂けて」が復刊された。通学時間過ぎていたため、授業が風化している」と感じた当時の同教務主任、渡辺安之さん(71)が復刊し、地域の模様を生々しく伝える。「地震の教訓が風化している」と感に残っていた幼児やお年寄りが被書に連ったという。家庭や小中学校に配った。南伊豆町は震度5の揺れに震った。

授業はこの文集を児童に読み聞かせることから始まる。さらに、家族や親せきに当時のことを尋ね、当時の新聞などが残る郷土館で調べる。地区ごとの班に分かれで体験者の話も聞きに行

く。地盤への備えにも一役買つて避難場所や非常用持ち出し品の確認も行っている。

5年の担任、吉田祐子教諭は「地域のお年寄りを訪ねて話を聞いて心のつながりが生まれ、郷土愛にもつながっていいく」と話す。

授業の効果は家庭でも表れる。藤田さんは家の非常用持ち出しが点検され、携帯用ボリタックがないことを指摘して、停電の電池が切れているのを見つけた。母親の藤田満美子さん(39)は「固定していない家具のことも指摘され、早速付けることになりました。子供から言われると、やらなければと思います」と話した。

石田校長は「身近な出来事だからこそ、児童たちが興味を持つ。学校の伝統として、地域防災の充実につながる授業を目指したい」と語る。【中村牧生】(原則として木曜朝刊に掲載)

